

保育士志望者に対するピアノ指導法の考察

—主にピアノ初心者に対する指導法—

藤本 真理子

A Study on Methods of Teaching Piano to Candidates of Nursery Teachers:
Mainly to the Beginners of Piano

Mariko FUJIMOTO

要約

保育士・幼稚園教諭を目指す学生にとって、保育現場で日常的に使われる「子どもの歌」の弾き歌いを習得することは必要不可欠である。

本論では、主にピアノ初心者に対し、ピアノの基礎的なテクニックを段階に分け、系統的に習得すると同時に、「子どもの歌」を併用して少しずつレパートリーを増やしていき、さらに、「子どもの歌」の伴奏アレンジに使用するコードネームを習得して、いかなる「子どもの歌」の伴奏にも対応できる力を身につける指導法について考察する。

1. はじめに

保育園・幼稚園では、日常的にあいさつの歌、季節の歌が歌われており、また、音楽会や卒園式などの行事でも保育士による伴奏で歌が歌われる。また、保育園・幼稚園の就職試験の試験科目にピアノを含む園が多くみられる。そのためにも、保育士・幼稚園教諭を目指すためにはピアノ力が必要である。

ところが、T短大をはじめ、全国の大学の保育科の学生の中には、ピアノが未経験、あるいは初心者の状態で入学してくる者も少なくない。

そのようなピアノ初心者の学生に対し、保育現場で子どもと共に弾き歌いできるようになるために、どのように指導を進めていくかを考察する。

2. 基礎的なテクニックの習得

初心者には何より基礎的なテクニックを身につけることから始めなくてはならない。そのために、バイエルを用いて基礎的な力を身につけながら、段階に応じて、「子どもの歌」も併用していく。

本論ではバイエルを10の段階に分け、それぞれ指導

する際の注意点をあげながら、「子どもの歌」をどのように取り入れていくかを述べていきたい。

①片手のみ（バイエル1・2）

まず、ピアノに向かう姿勢、椅子のすわり方から始め、五線、音部記号、音名、音符や休符の名称など、覚えていく。すでに小学校から音楽で楽譜には接しており、ある程度理解している学生が多いので、ここは確認作業である。

また、手の形、指の独立など弾き方も指導していくが、幼児と違い、手、指がしっかりしているので指導しやすい面もある。

この段階では、右手のみ、または左手のみで、一つの音に集中できる。

この段階から、ドレミファソで弾ける、簡単で、学生もよく知っている「子どもの歌」のメロディーを片手で弾き、少しずつ慣れたい（例「ぶんぶんぶん」「かっこう」「ちょうちょう」¹⁾）。

「子どもの歌」を保育現場で演奏する場合、子どもと共に歌う、すなわち弾き歌いが必要となる。そのた

めにも少しずつ弾きながら歌うことに慣れていきたい。手始めに、この段階から、歌を歌いながらメロディーを右手で弾いてみる。その際、歌詞で歌うのが大変であれば、まずドレミで歌っても構わない。

②両手 (バイエル 3-31)

・3-7番は、両手で同じ音を弾くユニゾン。ユニゾンといえば簡単そうであるが、人間の行動パターンで左右対称の動きは容易であるが、左右平行に移動するのは結構難しいものである。

またこの段階までに、ピアノを弾くにあって最も重要課題の一つである指番号をしっかり身につけたい。同じドレミファソを弾く際、右手は12345であるが、左手は54321であり、この特に左手の指番号がスムーズに弾けるようになるのに相当な慣れが必要である。

・8-31番は、右手と左手で違うメロディーを奏するようになる。左手が段々細かくなっていくが、まだドレミファソから移動はしない。

この段階では、簡単な「子どもの歌」のメロディーに少しずつ左手も入れていきたい。とりあえず、単音(ドやソ)の伸ばし(ベースコード)から始めたい。この方法については、後のコードのところでも詳しく述べたい。

③ソラシドレやラシドレミのポジション (バイエル 32-43)

32-34番は、両手ともソラシドレのポジションでのユニゾン。

35-36番は、右手は31番までと同じドレミファソで左手がソラシドレ。

37-40番は、両手ともソラシドレのポジションで、それぞれ異なるメロディー。

41-43番は、両手ともラシドレミのポジションでのユニゾン。

この段階より、ドレミファソと異なるポジションで奏する。ただし曲中でのポジション移動はないので、曲の最初にしっかり音の位置を確認し、指番号も参考にしながら、音を読むのに慣れていく。

④8分音符の登場 (バイエル 44-52)

44番のリズム練習で音符の長さをしっかり理解し、45番からの8分音符を含んだ、リズムの多様化した曲に入っていく。

また、52番は、初めて6/8拍子が出てくるので、拍子についても確認したい。

音符の細かくなってきたこの段階では、音の粒をそろえてレガートに奏すること、また、フレーズを大切にメロディーをよく歌わせること、さらに、伴奏は弱くなど左右のバランスも気を付けるよう指導する。その際、「子どもの歌」のメロディーを歌いながら弾くように、バイエルなどの曲でも、どこからどこまでが一つのフレーズであるか、歌ってみるとわかりやすい。

⑤曲中での手のポジション移動とへ音記号 (バイエル 53-64)

53番より、曲の途中で手のポジションが移動する。

また54番から、左手の位置の移動と共に、へ音記号が登場する。へ音記号に慣れていない学生も多いので、慣れるまでドリルなども併用して読む練習もしたい。

この段階では、弾ける鍵盤上の位置も広がり、リズムも多様化してきているので、「子どもの歌」についてもレパートリーを増やしていきたい。

保育園や幼稚園で日常的によく使われる、あいさつの歌なども少しずつ取り入れていきたい(例「おはよう」「おべんとう(譜例1)」「はをみがきましょう」「おかえりのうた」²⁾)。

⑥ハ長調の音階と重音 (バイエル 65-69)

65番より音階が登場し、親指をくぐらせる弾き方を習得する。なめらかに、肘を上げずに親指の関節をよく曲げて弾くよう、慣れるまで、学生の手や指の柔らかさに合わせて練習方法を工夫しながら指導する。

67番より重音(2つの音を同時に弾く)が出てくるが、長さの異なる指で2つの音を同じ強さで同時に弾くというのは、なかなか難しく、細心の注意を払って音を出さねばならない。

⑦黒鍵の登場と#系の調 (バイエル 70-85)

70番より、#系の調が出てくる。ト長調(#1つ)に始まり、75番でニ長調(#2つ)、79番でイ長調(#3つ)、82番でホ長調(#4つ)。長音階の成り立ちや調性などの楽典も理解しておきたい。

これまで、ソラシドレのポジションがあっても、白鍵のみであったが、いよいよ黒鍵も使用し、また、曲の途中で転調するものも多くある(譜例2³⁾)。

【譜例 1】

お べ ん と う

天野 蝶 作詞
一宮 道子 作曲

♩ = 120

お べ ん と
お べ ん と う れ し い な
な り ま し た み ん な そ す ろ っ て り ー ざ い さ つ つ
よ く か ん で み ん な さん だ ら り ー ざ い さ つ つ

【譜例 2】

Allegretto

80. *mf*
leggero

f *p* *f*

このあたりがバイエルの最大の難所ともいえる。ここを頑張って乗り切ることによって、ずいぶん「子どもの歌」もレパートリーを広げることができる。指導者として、時間はかかるが、必ず弾けるようになることを説明して励ましていきたい。

⑧16分音符の登場 (バイエル 86-90)

86番のリズム練習で、16分音符や3連符を含めた音符の長さをしっかり身につけたい。

88番と89番で出てくる、1拍の中での付点のリズムは、両手を合わせてリズムを正確に弾くのが難しく、リズム練習を工夫する。

⑨イ短調とへ長調 (バイエル 91-104)

91番でイ短調が出てくる。ここで、3種類の短音階(自然的短音階、和声的短音階、旋律的短音階)を、しっかり身につけたい。

94番よりへ長調が出てくる。へ長調の音階は、右手の指使いが他の調と異なるので注意したい。

100番、102番、104番は、バイエルの仕上げの3曲であり、よく試験などでも選曲される。暗譜する位、弾きこみたい。

この段階まで来たら、調性によって曲想を合わせ、変えるよう工夫し、「子どもの歌」にも応用したい。

⑩半音階 (バイエル 105-106)

105番で半音階が出てくる。片手ずつなら比較的すぐできるが、両手合わせた時、指使いが難しい。しかし、半音階は「子どもの歌」や、その他今後取り組む楽曲でも出てくるものなので、ここで確実に身につけておきたい。

バイエルを修了した学生には、またはバイエルの途中であっても、適宜、ブルクミュラーやギロックなど、他の教材を学生に合わせて取り入れていくことも大切である。

3. 移調

「子どもの歌」の曲の中には、原調では高すぎて歌いづらかったり、また、調性を変えることによって、伴奏が楽になるものがある。このように調性を変えることを『移調』という。この移調奏を身につけておくことは、保育現場で弾き歌いをする際に大変有効であ

る。

例として「チューリップ」を取り上げる(譜例3⁴⁾)。原調はへ長調である。ところがへ長調では少し高く、園児には歌いにくい。そこでへ長調やト長調への移調奏ができれば、園児の歌いやすい調に合わせて弾き歌いすることができる。

移調奏も、訓練することで慣れるので、少しずつ時間をかけて取り組むことが大切である。

4. 伴奏のアレンジ

ピアノ力を高めて「子どもの歌」のレパートリーを増やしていくと共に、コードネームによる伴奏づけを習得して、自分で伴奏をアレンジできるようにすることによって、難易度の高い「子どもの歌」に対応できるようになる。

学生は、楽典または音楽理論の授業で、和音について習得していることも多い。しかし実践までは至っていないことが多く、ここではコードネームを使って、伴奏づけを実践していく。

①コードネームの習得

(1)まず、コードネームを理解できているか確認する(譜例4⁵⁾)。

・長3和音=メジャー

長3度の上に短3度で両側が完全5度。コードネームはメジャーを省略して根音名のみを記す。

・短3和音=マイナー

短3度の上に長3度で両側はメジャーと同じく完全5度。コードネームは大文字の根音の右に小文字のmを付ける。

・増3和音=オーグメント

長3度の上に長3度で両側が増5度。コードネームは大文字の根音の右に小文字でaug(または+5)を付ける。

・減3和音=マイナー・フラット・ファイブ(またはディミニッシュ)

短3度の上に短3度で両側が減5度。コードネームは大文字の根音の右に-5(またはdim)を付ける。

(2)次に、へ長調とへ短調の音階上にできる和音のコードネームを書かせて、しっかり理解できているかを確認する(譜例5⁶⁾)。

【譜例 3】

移調の練習-I

チューリップ

井上武士
(1894 - 1974)

[ハ長調]

32.

[ト長調]

[ヘ長調]

【譜例4】

長三和音—M (メジャー)



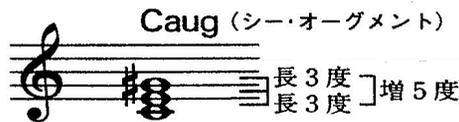
Mの文字とメジャーということばはよく省略され、ただC(シー)とする方が多いようです。

短三和音—m (マイナー)



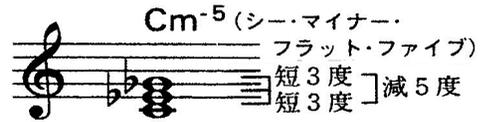
mの文字とマイナーということばは省略せず必ず書き、読みます。

増三和音—aug (オーグメント)



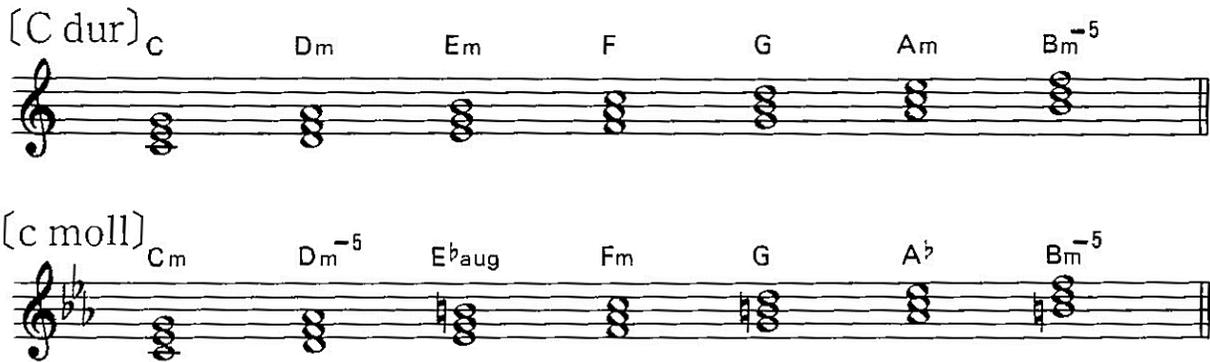
C+5とも書きます。

減三和音—m⁻⁵ (マイナー・フラット・ファイブ)



-5の-は、フラットと読みます

【譜例5】



②伴奏づけの実践

(1)ベースコード

メロディーに、和音でなく、和音のベースすなわちコードネームの根音のみを左手で弾いていく(譜例6⁷⁾)。単純ではあるが、メロディーだけに比べ、聴き映えがして有効である

(2)コードネームの和音

次に、左手をコードネームの和音にする。この際、弾きやすいよう転回形も用いるとよい。最初は、コードネームが変化しなければ、1小節に1つずつから始め、慣れてきたら、曲の雰囲気に合わせ、1拍ずつの刻みにするなど工夫していく(譜例7⁸⁾)。

(3)リズムパターン

さらに、コードネームの和音を使って、色々なリズム

ムパターンで試してみる。曲によって、はぎれのよい元気な感じのものがよい場合、スラーのなめらかなものがよい場合など、自分の描いたイメージに合わせて選んでいくとよい(譜例8⁹⁾)。

(4)コードネームの種類増加

コードネームの和音の種類を段々増やしていく。例えば次のようにしていくとよいと思われる。

「かたつむり」… C, G₇

「夕やけ小やけ」… C, G₇, F

「めだかの学校」… C, G₇, F, Am

「大きな栗の木の下で」… C, G₇, F, Am, Em (譜例9¹⁰⁾)

【譜例 6】

ちょうちょう

作詞者不明／スペイン民謡

♩ = 84

Musical score for 'ちょうちょう' (Caterpillar) in 2/4 time. The score consists of three systems of piano accompaniment with lyrics. The first system starts with a *mf* dynamic and a C major chord. The second system includes a *mp* dynamic and a G major chord. The third system includes a *mf* dynamic and a C major chord. The lyrics are: ちょうちょう ちょうちょう なのはにとまれ なのはに あいたら さくらにとまれ さくらの はなの はなから はなへ とまれよ あそべ あそべよ とまれ

【譜例 7】

手を叩きましょう

外国曲

Musical score for '手を叩きましょう' (Clap your hands) in 4/4 time. The score consists of three systems of piano accompaniment. The first system features triplets (3) and a fourth note (4). The second system features a fifth note (5) and a fourth note (4). The third system features a fifth note (5) and a triplet (3). The bass line consists of chords and rests.

【譜例 8】

(1) $\frac{1}{4}$ 拍子

1 $\frac{1}{4}$ C F C: I IV²

2

3

4

5

6

7

8

9

10

(2) $\frac{3}{4}$ 拍子

1 $\frac{3}{4}$ C F C: I IV²

2

3

4

5

6

7

8

9

10

【譜例 9】

大きな栗の木の下で（1） 作詞者不明／イギリス民謡

5. 考察

ピアノ演奏は両手を同時に用い、しかも右手と左手と異なる動きをする。さらに、弾き歌いでは歌も加わり、口と右手と左手、三者三様であり、これを習得するためには、日頃の練習とたゆまぬ努力が必要である。保育士を目指す学生は、ピアノの他にも図工、体育、心理、栄養、その他多岐にわたる分野の学問を習得することを求められ、ピアノに向かう時間も限られているが、これまで保育科の学生を指導してきた、本論文のように、段階を追って系統的に進めていくことによって、学生にとっても、できるようになったものが自分で理解でき、そして次の目標はこの段階でこの曲などと設定しやすいようである。最初は難しいと感じた曲でも、練習を積み重ねることにより、少しずつでも弾けるようになっていく体験は得難いものであり、自信をもって学習していくよう指導者は学生を励ましていくことが大切だと思われる。

本論文では、ピアノ初心者の学生に対しての指導の進め方を論じてきたが、さらに学生は、保育現場で「子どもの歌」を与えられた際に、まず、そのままの楽譜で自分の力で弾けるようになるかを見極め、弾ける部分は練習して弾けるようにし、弾けない部分があ

る、または全く弾けない場合、もう少し簡単な楽譜がないか探す。これも大切な作業で、学生のうちから、出版されている様々な曲集の中から自分のレベルに合った曲を選び出す訓練もしておきたい。また、本論で述べたように、コードネームを用いて自分でアレンジしたり、移調するなど、多様な引き出しを持っていることによって、対応していけるものと思われる。

このようにしてピアノを習得し、保育現場で子ども達と共に「子どもの歌」を楽しむことができ、さらに園児達も、歌や音楽の楽しさを体感することができれば本望である。

参考文献

- (1) 森本琢郎、池田恭子（1999）『うたうソルフェージュ：1』ドレミ楽譜出版社、pp.31-41
- (2) 杉山雅美、加藤明代（2010）『幼児音楽資料集 子どもの歌』常葉学園短期大学幼児音楽研究会、pp.1-19
- (3) 『全訳バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社
- (4) 菊本哲也、八木宏子、山内悠子、在原章子、柳田憲一（2003）『ピアノ教本 MUSICA』全音楽譜出版社、p25

- (5)飛田君夫 (2003)『ザ・楽典』ヤマハミュージックメディア, pp.70-71
- (6)菊池裕、小山恭弘 (2004)『新総合音楽講座1 楽典』ヤマハ音楽振興会, p64
- (7)小林美実 (2004)『いろいろな伴奏で弾ける こどものうた 100』チャイルド本社, pp.6-7
- (8)菊本哲也、八木宏子、山内悠子、在原章子、柳田憲一 (2003)『ピアノ教本 MUSICA』全音楽譜出版社, p26
- (9)田畑八郎 (1999)『コードネームと和音記号を発見するための 伴奏づけ課題 101曲集』東京音楽書院, pp.66-67
- (10)橋本晃一 (2004)『こどもの歌で学ぶ はじめてのピアノ伴奏入門』ドレミ楽譜出版社, pp.6-8

子どもと遊び

—保育園・幼稚園に通っている子どもの家庭での保護者との遊び—

増田おさみ

Children and Play: Survey Results of Nursery School and Kindergarten Children's Play
with Their Parents

Osami MASUDA

1. はじめに

あそびについて、保育所保育指針においては、「教育とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助であり、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」及び「表現」の五領域から構成される。この五領域並びに「生命の保持」及び「情緒の安定」に関わる保育の内容は、子どもの生活や遊びを通して相互に関連を持ちながら、総合的に展開されるものである」⁽¹⁾としており、幼稚園教育要領においては「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。」⁽²⁾と、両者ともに遊びを通して総合的な育ちを促すものであるとしている。

筆者は、子育て支援のNPOを立ち上げ、親支援を実施してきた。親が子どもを見ていく時には、総合的に子どもの育ちをみていく必要があると考える。しかし、発達の学習をしたことのない親たちにとっては、子育ては未知の世界である。そこで、子どもの発達を傍らで一緒に見ながら、適切な遊びを提供し、一人ひとりの発達を促していく必要があると考え、活動してきた。子どもの発達が感じられると、親の育児不安やストレスは軽減し、子育てが楽しくなる。そうしてくれるといいという思いがあった。何もわからず、イライラが募り、虐待にはしりそうな親から、発達やあそび方・接し方がわかることにより、育児負担が軽

減するということばをきくこともあった。傍らで一緒に関わる“人”がいたことも育児負担の軽減に関係があったとも考えられるが、発達を理解し、遊びを提供し、一緒に遊べる保育者・教育者を育てる必要があると考える。

筆者は、遊びについての実態を調査するため、2010年8月、静岡県の幼稚園・保育園の保護者を対象に質問紙による調査を実施した。

2. 研究

目的

近年の経済的変化、女性の社会参加など社会的環境の変化を背景に、日常生活における子育ての実態も多様化している。そんな中、子育てをする親の意識と、幼児の日々の生活実態がどのようになっているのか、乳幼児の日々の生活の中に遊びがどのようにどのくらい取り入れられているのかなどを調査した。

今回の調査においては、現代の子どもたちがどんな遊びを誰としているのかを調べ、子どもの遊びの現状を把握し、現代の遊びにおける問題点を提起することや、その解決策を探ることを目的とし、調査を実施した。

さらに、子どもと遊びとの関連を検討することにより子どもの育ちを守るためにはどのようなことができるかを、保育園・幼稚園に子どもを通わず親へ質問紙による実態調査において分析検討することを目的とした。

方法

2010年7月から8月にかけて、静岡県内の幼稚園5園、保育園5園に質問紙配布を依頼し、保護者に回答いただき、回収していただいた。

調査対象者は、静岡県の幼稚園・保育園在園児の保護者、回収数984名、うち有効回答者979名（父親39名、母親937名、祖父母3名）であった。（無回答5名）

なお、幼稚園・保育園別の回収数は、幼稚園445名・保育園534名で、幼稚園45.5%・保育園54.5%であった。（表1）

表1 幼稚園・保育園別回収数

	人数	%
幼稚園	445	45.5
保育園	534	54.5
合計	979	

個別記入方式の質問紙調査で実施した。質問は、(1) 調査記入者の年齢・子どもとの関係・職業・年収・家族構成・親になる前の子どもの世話経験・自身の祖父母との同居経験など8項目 (2) 子どもと家族について入園年齢・理由・起床就寝時間・テレビ視聴時間・遊びの内容・子どもの食事など日常生活の世話・生活リズムなど28項目 (3) 自分自身の子育てについてのふりかえり・子どもとの関係性について9項目 (4) 子育てについて日ごろ感じていること15項目、全60項目であった。この中から今回は、家族構成・家での遊びの種類・親との遊びの時間及び時間帯・テレビの視聴時間を含む子どもの日常生活年齢別平均時間・絵本の読み聞かせ・わらべうた手遊びの項目を選び、家庭での親との遊びについて研究を進めた。

結果

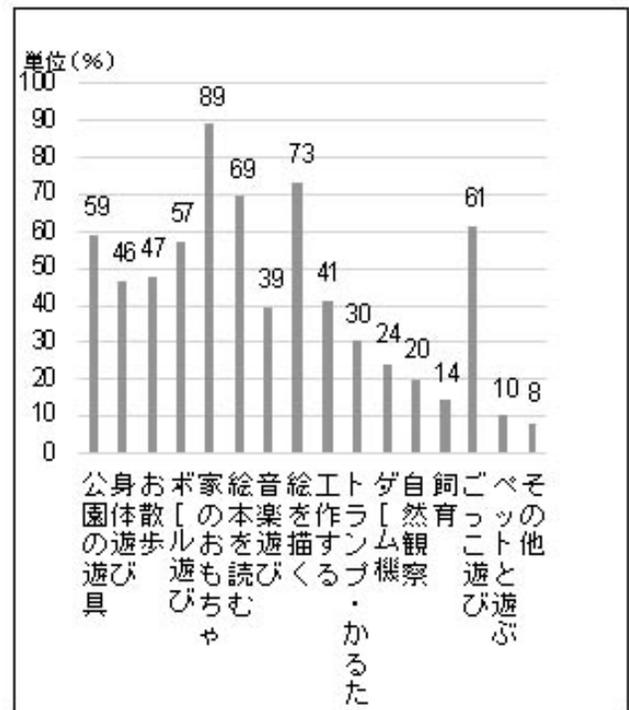
(1) 対象者の家族構成は、核家族662名、拡大家族314名であった。拡大家族では、親と祖父母という家族構成であった。祖父母と同居のパーセンテージは32%であった。うちひとり親の家族が69名であった。ひとり親のパーセンテージは7%であった。（表2）

表2 調査対象者家族構成

家族	子どもの数 世帯形態	子どもの数					計 (人)
		1人	2人	3人	4人	5人	
核家族	両親と子ども	163	321	125	9	5	623
	ひとり親と子ども	20	15	1	1	0	37
	その他	2	0	0	0	0	2
拡大家族	両親と子ども両祖父母	32	106	48	4	0	190
	両親と子どもと片祖父母	26	44	17	4	1	92
	ひとり親と子どもと両祖父母	15	4	1	0	0	20
	ひとり親と子どもと片祖父母	6	4	2	0	0	12

(2) 帰宅後の園児が、どのような遊びをしているかを調べた結果が図1である。家での遊びの種類は、「家のおもちゃ」が89%と最も多く、次いで「絵本を読む」69%、「ごっこあそび」61%、「公園の遊具」59%の順であった。この結果から、屋内での遊びが多いことが明らかになった。

図1 家での遊びの種類



(3) 子どもと親との遊びの時間の平均を、母親と父親にわけて表3に示した。平日においては、平均で母親が1時間25分、父親が44分であった。子どもと親との遊びの時間帯を母親と父親にわけて表4に示した。

遊ぶ時間帯は、母親・父親ともに夕食から就寝までの時間が最多であった。幼稚園に通っている家庭においては、帰宅から夕食まで母親が遊んでいると考えられる。

表3 子どもと親との遊びの時間

	母親		父親	
	時間	人数	時間	人数
平日	1時間25分	920	44分	851
休日	4時間13分	885	3時間52分	837

表4 子どもと親との遊びの時間帯

平日遊ぶ時間帯（％）

休日遊ぶ時間帯（％）

	母親		父親	
	人数	％	人数	％
起床～朝食	5	5	11	13
朝食～登園	11	6	41	45
帰宅～夕方	49	8	78	65
夕方～夕食	26	20	69	57
夕食～就寝	67	58	61	71
			51	49

（４）子どもの日常生活について、起床・就寝時間、テレビの視聴時間、ゲームの時間を年齢別に平均時間を算出し、表5に示した。平日起床時間の平均は6時40分、平日就寝時間の平均は21時6分、平日のテレビの視聴時間は平均2時間16分。平日ゲームの時間は平均30分であった。

なお、テレビ視聴開始平均年齢は、1.23歳、ゲーム開始平均年齢は、3.66歳であった。

注：表5におけるゲームとは、ゲーム機を使ってのゲームのことを示す。

表5 子どもの日常生活 —起床など日常生活年齢別平均時間—

平日起床	平日就寝	休日起床	休日就寝	年齢	平日テレビ	休日テレビ	平日ゲーム	休日ゲーム
6:26	21:00	6:52	21:13	0歳	1時間53分	2時間44分	20分	1時間5分
6:23	20:54	6:49	21:10	1歳	1時間20分	1時間53分	48分	54分
6:35	21:14	6:02	21:21	2歳	1時間49分	2時間43分	5分	13分
6:41	21:06	6:05	21:16	3歳	2時間7分	3時間5分	21分	38分
6:41	21:00	6:07	21:13	4歳	2時間16分	3時間9分	26分	46分
6:43	21:00	6:04	21:08	5歳	2時間30分	3時間28分	34分	55分
6:44	20:59	6:13	21:14	6歳	2時間30分	3時間36分	32分	53分
6:40	21:06	7:05	21:12	平均	2時間16分	3時間12分	30分	55分

（５）遊びの中でも、人間関係・言葉・表現・情緒の安定などに影響を及ぼす絵本の読み聞かせとわらべうた・手遊びについて実施しているかを示した結果が表6・表7である。絵本の読み聞かせをしている人のパーセンテージは、毎日している27%、ときどきしている64%を合わせると91%と絵本を読んでいる確率は、大変高い結果となった。

また、わらべうた・手遊びも毎日している12%、ときどきしている72%を合わせると84%と高い結果となっている。

表6 絵本の読み聞かせ

	人数	％
毎日している	263	27%
ときどきしている	630	64%
ほとんどしたことがない	85	9%
無回答	1	0%
合計	979	

表7 わらべうた・手遊び

	人数	％
毎日している	122	12%
ときどきしている	706	72%
ほとんどしたことがない	150	15%
無回答	1	0%
合計	979	

3. 考察

家での遊びは、「家のおもちゃ」が89%であり、おもちゃの役割は大きく、おもちゃ選びやおもちゃの遊び方の理解も深めていく必要がある。傍らにいた大人が発達にあったおもちゃや遊び方を理解していれば、子どもの遊びは充実したものになるであろう。一方で、この結果は、おもちゃを使わずに遊ぶ方法・技術を知らないことの表われともいえよう。日用品(洗濯バサミ・座布団・布・風呂敷ほか)を使っての遊びや廃材(新聞紙・牛乳パック・紙コップ・トイレットペーパーの芯・段ボールほか)を使っての遊びなど、おもちゃがなくても遊ぶ方法があることも知っておく必要がある。

「家のおもちゃ」に続き、「絵を描く」「絵本を読む」「ごっこ遊び」と屋内遊びが続く。それに次いで、「公園の遊具」58%と屋外での遊びが出てくる。これに続き、「ボール遊び」57%、「さんぽ」47%、「身体あそび」46%と身体を使った運動遊びが出てくる。子どもの体力をつけるためには、運動遊びなどは欠かせないにもかかわらず、運動遊びが60%に満たないものがほとんどであることは、子どもの体力の低下が懸念される。親にとっては、屋外遊びを増やしたい気持ちはあっても現代の社会環境を考えると、子どもをひとりで外に遊びに行かせるのが危険である、近くに公園など場所がない、一緒に遊ぶ友達がいない、時間がないなど様々な理由で屋外遊びをさせにくい現状になっていることも問題である。テレビの視聴・ゲームをしてしまうために屋外に行く時間がなくなるのか、屋外に行けないためにテレビの視聴・ゲームが増えてしまうのか、平日の平均のテレビの視聴時間とゲームの時間を合わせると2時間46分であり、平日の平均就寝時間が21時6分であることを考えると、家で親と過ごす時間の中でテレビの視聴、またはゲームをしている時間が多くを占めているということがいえるであろう。この調査でも、子どもと親との遊びの時間は、父親と母親の遊ぶ時間を加えても平日平均2時間9分であり、テレビの視聴・ゲームの時間が、子どもと親との遊びの時間を上回っている。その中で、いかにして人と人との関係性の中での遊びというものを取り入れていくかがこれからのテーマとなっていくところである。

そのほか、音楽遊びは39%にとどまっている。これは、人と人との関係性の中での遊びが減少しているこ

との表われともいえるであろう。音楽遊びは、人間の生の声・人とのふれあいの中で営まれることがほとんどである。時間に追われ、メディアに時間を奪われ、音楽遊びが39%という結果になっていることも、これから子どもたちの育ちを守るためには、われわれのテーマとして考えていかななくてはならない。そのための具体的な方法として、子どもを取り巻く大人たちに、子守唄から始まり、わらべうた・ふれあいあそび・うたあそび・手遊びなどを伝授していくというのを敢えてしていかななくてはいけない時期に来ているのではないかと考える。

岡本夏生は乳幼児期の遊びについて次のように述べている。

身体を介した乳児の遊びは「感覚運動的な遊び」と呼ばれる。乳児期のおわりから幼児期のはじめ(2歳前後)にかけて「象徴遊び」が出現する。「見立て遊び」「ごっこ遊び」をイメージするとよい。現実世界とは異なった虚構の世界を創り出す遊びである。その後、参加する友達も増えて「集団的象徴遊び」を作ることにも可能になる。しかし、幼児は、象徴遊びにだけふけているのではなく、身体性と強く結びついた遊びに没頭していくことも多くなる。また、それとは対照的な遊び、つまり絵本を見たり、話を聞いたり、音楽を聴いたりすることを喜ぶ態度が強まってくる「鑑賞遊び」とか「受容遊び」と呼ばれるものがでてくるのも幼児期である。また、「ことば遊び」にも興味を示す子が多くなる。(2005 岡本)³⁾

年齢・発達によって、遊びの種類は変化する。保育者・教育者は、それぞれの子どもに今、何が必要なのかを見極め、対象児が、どの段階にいて、次はどのようなことをしていったらいいのかを、個別にみていかなくてはならない。

調査の結果、自然に関する遊びは、「自然観察」20%、「飼育」14%と20%を割る。辛うじて、「さんぽ」は47%であるが、50%を割る。岡本(2005)は、「かつて、遊びは自然のものとされていた。今日のコンピューターゲームや携帯メール、テレビにはまり込んだ子どもたちは、自然と切り離されて無機的文化の中に囲まれてしまったとの感は否めない。単に昔の遊びの形だけの復元を目指すのではなく、現在の文化的社会的環境の変化と生活実態の変化を関連させながら、幼児の遊びを出来るだけその根っこのところから検討しなくてはいけない時期に来ている。」⁴⁾と述べている。本

研究においても、子どもと親の生活実態の変化と社会的環境の変化により、遊びの種類も屋内中心の遊びになり、自然から遠ざかっている結果が顕れた。現代の社会状況・環境に沿った遊び方の工夫をし、子どもの育ちを守っていく働きかけを模索し、実行していく必要がある。

4. まとめ

発達にあった遊びを保護者も理解し、遊びを充実させることが、親と子の愛着を深めることにもつながる。限られた時間の中、愛着を深めていくために出来ることを親も模索している。方法論を身に付けることは、子どもと遊ぶ導入になる。実際、「子どもを抱くこと」をするためのツールとして子守唄を唄ったり、体を触ることにより子どもと親の絆が深まるとされるベビーマッサージをしたり、少し大きくなった子どもと遊ぶには、手指を使う工作を一緒にしたりと、簡単な方法論を身に付けると、遊ぶ時間も愛着心も増すことであろう。さらに、子どもと接することにより、親自身が癒されたり、愛情が増したりするということもある。遊びとは、子どもの発達を促すものであると同時に親と子の愛着心を育てるものである。

保育者・教育者は、遊びというツールを使って、子どもの発達を促すことはもとより、親への遊びの提供により、親子の愛着関係の構築をはかるなど、親支援も視野に入れた取り組みができることが必要になると考える。

5. 今後の課題

保育園に通っている子どもと幼稚園に通っている子どもの生活習慣の違いと遊ぶ時間の違い、それに伴う遊びの種類の違いも、分析していきたい。また、年齢別の遊びの違いや性別による遊びの種類の違いも分析を進めていきたい。

その他、家族構成において、兄弟がいる家庭では、兄弟と遊ぶ中で培われるものもあると考えられるので、兄弟関係と遊びとの関係も調査を重ねていきたい。現代においては、兄弟間で遊ぶにあたって、ゲーム機を介しての遊びもあると見受けられるため、兄弟間の遊びの種類・時間も興味深い。

また、祖父母との同居の有無は遊びの種類にも影響

してくると考えられるので、今後さらに調査を進めていきたい。

筆者が子育て支援活動を行っているNPO法人においてもこの調査の結果を受けて、親支援活動が続けていきたい。子どもたちが外で遊べる環境になるように地域社会に働きかけること、親との遊びの時間を増やすために働き方の見直しがより進んでいくように企業に働きかけることなども必要だろう。テレビ・ビデオの視聴や携帯電話・パソコン・ゲーム機の使用などメディアの子どもたちに与える影響、身体を使った遊びの減少による子どもへの影響などを子育て中の保護者に伝えていきたい。母親・父親への啓発のための講座を開くことも有効である。保護者が遊びを理解して子どもと一緒に遊び、親子ともに愛着心が育っていくために、具体的な遊びの実践講座も開講していきたい。

【引用文献】

- (1) 厚生労働省『保育所保育指針』p12、2008
- (2) 文部科学省『幼稚園教育要領』p1、2008
- (3) 岡本夏木著『幼児期』岩波新書p80、2005
- (4) 岡本夏木著『幼児期』岩波新書p110、2005

【参考文献】

- ・正木健雄著『子どもの体力』大月書店、1979
- ・正木健雄著『おかしな子どもからのだ』大月書店、1995
- ・片山義弘・石井眞治編『乳幼児発達心理学』福村出版、1993
- ・増田おさみ・大川美佐子・金沢敬子共著『子育てのキホンの話』あそび子育て研究協会、2011
- ・新開英二著『「言葉の力」が子どもを育てる』エイデル研究所、2008
- ・二木武監訳『母と子のアタッチメント』医歯薬出版株式会社、1993
- ・渡辺久子著『母子臨床と世代間伝達』金剛出版、2000
- ・コンスタンス・カミィ／リタ・デリーズ著『ピアジェ理論と幼児教育』チャイルド本社、1980
- ・M・モンテッソーリ著『モンテッソーリの教育・0歳から6歳まで』あすなろ書房、1998

保育士養成課程における 保育技術（音楽）習得に関する基礎的研究

丸尾 真紀子

A Fundamental Study on Acquisition of Nursery Technique in Music in the Training
Course for Child-care Workers

Makiko MARUO

保育士養成校における保育技術「音楽」で扱われる楽器というと、まずピアノが挙げられる。

しかしそれについては『ピアノ偏重教育ではないか』という指摘もされてきた。そこには、「ピアノを弾くこと」や「ピアノを弾きながら歌うこと」に偏る教育への危機感も含まれているように感じる。そう言われながらもなぜピアノが選択されることが多いのか、その理由とともに、ピアノを「弾く」ことだけにとらわれない技術を習得する方法を再考していきたい。これにより、保育技術習得におけるピアノの利点と欠点を明らかにしていき、ピアノを通して学んだ事をどのように発展させて保育の現場で生かしていけるかを考えていきたい。

I. はじめに

現在、保育技術「音楽」を学ぶ際に選択される楽器はピアノである事が多い。静岡市内には国公立大学が二校、私立大学が二校、公立短期大学（短期大学部）が二校、私立短期大学（短期大学部）が三校あるが、保育士資格の取れる大学は二校（内一校は他市キャンパスにおいて）、短期大学は三校である。ピアノを取り入れているのは大学二校、短期大学三校である。

ではなぜピアノが選択されるのか。

他の楽器と比べてみると、まず「音を出す」ことが易しい点が挙げられる。鍵盤を押さえれば音が出るため、初心者にも取り掛かりやすい楽器といえる。そして音を出す際の姿勢に無理がなく、自分でチューニングをする必要がない点も利点であろう。

楽器を演奏する際に楽譜を読む事は避けて通れないのだが、ピアノの楽譜は大譜表で書かれているためト音記号とヘ音記号の両方を読む事になる。ヘ音記号を使用する一部の楽器を除けば、ほとんどの楽器がこの二つの音部記号で書かれているため、もし他の楽器を演奏することになっても読譜はできるのである。楽譜を読む訓練として考えてもピアノを使う意味は大きい。

音域も広い。ピアノ一台でオーケストラ一つ分の音域（7オクターヴ以上の音域）をカバーしている。これは他の楽器にはない特徴である。

また音楽の三要素（リズム・メロディ・ハーモニー）を効率よく学ぶことができる。音楽の基礎を学ぶには最適といえる。

そして、何よりも一般的に普及している楽器であるのも大きな理由の一つであろう。

以上の点から『ピアノ偏重』という指摘があっても、今なお選択される楽器なのだと思う。

ただ、ピアノを使って保育技術の授業をすると「ピアノを演奏する技術の習得」が主な目的になりやすい。それは保育現場で必要であるからだが、演奏技術の習得にはある程度の期間が必要であるし、レッスンを継続して受けることも大切である。演奏技術については学生の経験の差や得手不得手などにより個人差があるため、ここで明確に限定することはできない。ピアノを弾くことと楽譜を読むことに慣れる、この二点から始めて段階的に様々な技術を学んでいかなければならぬだろう。

大学や短期大学在学中に学べる範囲に限界があると考え「学生一人一人に即した演奏技術」とともに「ピ

アノを弾くこと以外へ関連付けられる力」をつける必要がある。演奏技術だけに焦点を当てるのではなく、ピアノを通して音楽を学ぶことに目を向け「ピアノを弾く力」から「保育現場で応用できる力」へ展開していくための方法を考えていきたい。

II. 考察

ここで、保育所保育指針・保育内容の「表現」から音楽に関係する部分を抜粋する。

○6か月から1歳3か月未満児

ねらい：聞く、見る、触るなどの経験を通して、感覚や手や指の機能を働かそうとする。

内容：保育士の歌を楽しんで聞いたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しむ。

○1歳3か月から2歳児未満

ねらい：身近な音楽に親しみ、それに合わせた体の動きを楽しむ。

内容：保育士と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、また、体を動かしたりして遊ぶ。

○2歳児

ねらい：興味のあることや経験したことなどを生活や遊びの中で、保育士とともに好きなように表現する。

内容：保育士と一緒に歌ったり簡単な手遊びをしたり、リズムに合わせて、体を動かしたりして遊ぶ。

○3歳児

ねらい：感じたことや思ったことを描いたり、歌ったり、体を動かしたりして、自由に表現しようとする。

内容：身の回りの様々なものの音、色、形、手ざわり、動きなどに気づく。
音楽に親しみ、聞いたり、歌ったり、体を動かしたり、簡単なリズム楽器を鳴らしたりして楽しむ。
絵本や童話などに親しみ、興味を持ったことを保育士と一緒に言ったり、歌ったりなど様々に表現して遊ぶ。

○4歳児

ねらい：身近な物事などに関心を持ち、それらの面白さ、不思議さ、美しさなどに気づく。

感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現する。

内容：様々なものの音、色、形、手ざわり、動きなどに気づき、驚いたり感動したりする。
友達と一緒に音楽を聴いたり、歌ったり、体を動かしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ。

童話、絵本、視聴覚教材などを見たり、聞いたりしてイメージを広げ、描いたり、作ったり様々に表現して遊ぶ。

○5歳児

ねらい：絵本、童話、視聴覚教材などを見たり聞いたりして、その内容や面白さを楽しみ、イメージが豊かになる。

身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動する。

感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して、表現する。

内容：様々な音、形、色、手ざわり、動きなどを周りのものの中で気づいたり見つけたりして楽しむ。

音楽に親しみ、みんなと一緒に聴いたり、歌ったり、踊ったり、楽器を弾いたりして、音色の美しさやリズムの楽しさを味わう。

○6歳児

ねらい：身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さなどに対する感性を豊かにする。

感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で工夫して自由に表現する。

内容：様々な音、形、色、手ざわり、動きなどに気づき、感動したこと、発見したことなどを創造的に表現する。

音楽に親しみ、みんなと一緒に聴いたり、歌ったり、踊ったり、楽器を弾いたりして、音色やリズムの楽しさを味わう。

以上が年齢区分、そして音楽に関するねらいと内容である。流れとしては「聞くこと」に始まり「歌うこと」「楽器を鳴らすこと（楽器を弾くこと）」「イメージを広げ表現すること」となる。この流れを「ピアノ

を使って音楽を学ぶこと」に対応させ、ピアノにはどのようなことが可能なのか考えてみたい。

＊「聞くこと」

「ピアノを弾く」ことに熱心になるあまり、自分の出した音を聴けないことが時として起こる。ピアノは音を出すこと自体は比較的易しいが、これは鍵盤を目視できるので、自分の出した音を「聴覚」ではなく「視覚的」に確認できるために易しいと言って良いだろう。さらに楽器を自分でチューニングすることがないので、チューニングを必要とする楽器、例えば弦楽器や管楽器のように、正しい音程で音が出ているかを意識する機会が少ない。何となくは聞こえているが、自分が出したいとイメージした音を出せているかを判断する聴き方が難しい。「誰にでも音が出せる」楽器だからこそ「音色」を感じ取ることが難しいのである。演奏技術の中でも音色に関することは難易度が高い。

音を出すことが易しいのは、初心者でも扱いやすい楽器である反面、聴く意識につながりにくいといえるだろう。楽譜に書かれた音を正確に打鍵することばかりにとらわれると視覚に頼りやすくなる。だが「何となく音が聞こえている」から「自分の出した音を常に聴こうとする姿勢を持つ」ことで視覚と聴覚の両方を使っていけるようにすることが必要だ。指針の内容では「聞くこと」から「音色の美しさやリズムの楽しさを味わう」まで「聞く→聴く」が土台となっている。日常生活でも様々な音があふれている中、子どもがどんな音に反応し、興味を持ったかに気づき、その「音」から「音楽」に結び付けていけることが保育士に求められている。そのためにも「弾くこと」と「聴くこと」のバランスを取ることが大切である。

ピアノを学ぶ際の課題として「聞く（聴く）こと」が挙げられるだろう。

＊「歌うこと」

弾きながら歌う「弾き歌い」や、歌を支える「伴奏」でピアノは使用される。ここでは「弾き歌い」を例に挙げてみる。

ピアノは音量もあり、メロディと伴奏（ハーモニー）が一人で出せるので歌を十分に支えることができる。また顔を自由に動かせるので、子どもの様子を見ながらの演奏も可能である。

まだ歌えない子どもにも、保育士が歌うことで音へ

の興味を促し、やがて子どもがその歌を覚えたり真似して歌ったりすることを考えると、ただ「弾いて歌う」だけではなく安定した演奏が求められる。さらに美しい演奏であれば理想的だ。

原曲のままだと、弾きにくい箇所ではテンポがくずれたり歌を中断して弾き直したりすることがあるが、音楽の流れを止めることなく安定した演奏をするためには、原曲の雰囲気や損なわない程度の編曲も必要になってくるだろう。また同じ曲であっても様々な編曲があるので演奏能力に合ったものを選択したり、編曲を見比べることにより編曲方法のヒントを得たり、「弾き歌い」を学ぶ中からも視野を広げていくことが望ましい。

「弾き歌い」ではレパートリーを広げることが主な目標になりやすいが、子どもが聞いたり歌ったりする時に安定した演奏ができるよう、楽譜選びや編曲の方法にも目を向けることが必要だ。

＊「楽器を鳴らすこと（楽器を弾くこと）」

「鳴らす」は奏法が正しくなくても音が出ること、「弾く」は正しい奏法で美しい音を出すよう意識することと考えたい。

楽器を指導する時には、音を出す時の姿勢から説明するが、これはその方が合理的であるからだ。

ただ、楽器は好きなように音を出すと楽しいという一面もある。初めて触れる楽器があったら、どんな音がするのか確かめたくなるし、どんなふう演奏するのか興味もわいてくる。この心理に子どもも大人もさほど違いはないと思うが、どうだろうか。

自己流でも音を出せたら楽しいし、正しい奏法で出された音と自己流の音の違いに驚くのも、次に進むきっかけになっていく。

ピアノは鍵盤を押さえれば音が出る。子どもにも音が出せるが、美しい音を出すのは難しい。「鳴らす」楽しさから「弾く」楽しさへつなぐきっかけを作れるよう、ここでも自分の出した音を聴き、音色の美しさを意識することが大切だろう。

＊「イメージを広げ表現すること」

ピアノの課題には弾き歌いや練習曲、小品など楽譜を使うものが多い。そうなるとうとうその完成度に目が向きがちになる。完成度の高さを求めるのは当然のことであるのでなんら問題はないのだが、楽譜に

書いてあることを弾けるようになったら、時にはイメージを広げるきっかけを作ってみたい。

楽譜通りに演奏するが、例えばピアノの音域の広さを利用して音の高さを変えてみたり、テンポを変えてみたりする。これだけでもかなり印象は変わる。高音域、低音域、指定より遅いテンポ、速いテンポ、またそれらを様々に組み合わせることで何通りかのパターンができる。自分が演奏できる曲を使って印象の変化を感じることはイメージを広げる手がかりとなるだろう。これは練習曲であってもできる方法なので取りかかりやすい。また曲全体を使わず、ごく一部の音の動きや短い旋律で音域やテンポを変えてみても良い。何かをイメージできたら、例えば絵本や童話の読み聞かせの時に効果音として入れることも可能だ。本来の目的とは違う楽譜の使い方だが、新しく教材を準備しなくてもできる方法なので気軽に挑戦できる。

何も無いところからイメージを広げるのは難しい。しかし何かきっかけがあれば、そこからオリジナルの表現につながっていくのではないだろうか。練習曲の一節であっても、音高やテンポを変えて弾けば何かを連想できて新しいアイデアへつながるかもしれない。演奏できるものを変化させることでサンプル作りをし、それを活用していくことは独自の表現を生み出す土台にもなる。遊ぶ感覚でイメージを広げる練習をし、その手段としてピアノを有効に利用したい。できるだけ多くのサンプルを持つことは新しいアイデアや表現へ展開していくための手助けとなるはずだ。

子どもが何かを表現しようとしている時に援助ができるよう、保育士は色々なアイデアを持っていることが大切だ。それはごく簡単なものでも、タイミング良く提示できると良いだろう。

保育指針に沿った内容を、ピアノに対応させて考えてみたが、「弾くこと」以外にも以上のようなことが可能である。一例に過ぎないがピアノを使って学べることは多い。

なぜ「ピアノを弾くこと」に偏りがちな指導になるのかといえば「楽器を演奏すること自体に慣れる期間」がある程度は必要という事情から「弾くこと」に時間を多く取りたい気持ちが働くためである。また、より多くの曲に接してほしいと思うと、やはり「弾くこと」重視の指導になるのもやむを得ない。弾く以外のことに展開していく時間が足りないのも事実である。

しかし、ピアノ以外のことに関連付けていける考え方を提示することを忘れてはいけない。たまたまピアノで学んだけれど、そこから様々な方向へつなげることができるということを、もっと学生に伝える必要がある。ピアノに限らず音楽においては演奏の完成度に目が向きがちだが、保育現場では気づき、考え、つなげる力も大切である。その方法を知るきっかけにピアノを使っていきたい。

Ⅲ. まとめ

養成校在学中に、ピアノの演奏技術や音楽に関わる知識をすべて学ぶことは不可能である。しかしピアノをきっかけに「何かへ関連付ける力」を育てることは可能だ。それは「保育現場で生かせること」につながるのではないかと考えた。

子どもが音に気づき、興味を持った時に自然に音楽へ入っていけるよう手助けすることが保育士には必要である。それは楽器や楽譜を準備することだけではなく、身近にあるもので工夫して表現することも含まれると思う。

学生の身近にあるピアノの利点を利用して「工夫の方法」を学ぶことが何かへ関連付けるための力に育つように、またピアノを学ぶことがピアノだけに留まらず他の領域にも応用できるように、それを試せる機会を多く作る必要を感じる。それには音楽の他の科目との連携も大切だ。

養成校は音楽の専門家を育てる場所ではないが、指導する側はやはり美しい音色でできるだけ正確に演奏して欲しいと願うものだ。この姿勢を保ちつつ、保育指針の枠組みである「聞く(聴く)」「歌う」「演奏する」「表現する」を学生がバランス良く習得できるよう配慮していきたい。

今回は事例を提示できなかったが、今後この取り組みが学生にどのように受け入れられどんなアイデアが生まれるかに注目したいと思う。

<引用文献・参考文献>

- ・ 社団法人全国保母養成協議会 基礎技能・保育に関する研究 保母養成資料集第14号 1995
- ・ 社団法人全国保母養成協議会 保母養成研究第13号 1995
- ・ 社団法人全国保母養成協議会 保育士養成研究第18

号 2000

- 幼稚園・保育所の保育内容 理論と実践
保育表現 I（音楽） 監修/田中 敏隆
総括編集/吉永 八代子 編集/久保 勝義
田研出版株式会社
- YAHOO!JAPAN 保育所保育指針 保育内容領域
「表現」抜粋

乳・幼児期のダウン症児の特徴と生活援助のポイント

山本 和子

Characteristics of Infants with Down's Syndrome and Points to Assist Their Life

Kazuko YAMAMOTO

<要約>

ダウン症児の出産はいろいろなリスクを抱えている。そのため早期の子育て支援が求められている。しかし、症児を出産した母親は、子どもの将来への不安、自分達の生活が変化する戸惑い、子どもを受け入れなくてはならないという葛藤と強迫観念、子どもへの罪悪感などで安定した健康状態には無い。その状態の安定を図ることが症児の発達を促す上で大きな役割を果たすのではないかと考える。そこで母親が症児の実情を理解し、一日も早く受容し小さな成長を喜び、安心して子育てができるように多角面から捉えた乳・幼児期のダウン症児の特徴と生活援助のポイントについてまとめた。

はじめに

ダウン症児は身体的特徴や機能的な面において発達上の遅れを伴うことがある。また知的発達においても遅れを伴うことがあり、早期の療育支援が求められる。そのため、症児を出産した母親は、子どもの将来への不安を抱く。母親にとってダウン症児の出産は予想していた生活を変化させられることになり、さらに症児を受け入れなければならないという葛藤や子どもに対する罪悪感などから、安定した健康状態を維持することは難しい。ダウン症児の出産を経験した母親が児を受け入れ、児と共に安定した生活を送るための支援を検討することは重要である。

今回、ダウン症児の育児について身体的・機能的特徴を踏まえた援助のポイントについてまとめた。

援助のポイントを考えた背景

ダウン症児の生活支援について検討するきっかけとなった事例を以下に紹介する。

「きゅっ、きゅっ」「きゅっ、きゅっ」2歳児の女児が靴の音を楽しんでいるかのように、デパートの玩具売り場を行ったり来たりしている。にこにこしながら時に歓声を上げながら歩き回っている。デパートへ玩具を買いに来たのだろう。30代半ばと思われる母親

は児の後を心配そうに半分手を差し述べながら追いかけている。「やっと歩き始めてほっとしたのも、つかの間、また心配事が」とつぶやく。60代を過ぎたと思われる祖母らしき女性は、「孫はもう1歳9ヶ月になるんだけどまだ歩かないの。身体が柔らかくて今も這って移動しているのよ。とにかく身体がぐねぐねして歩いて歩かないの。普通はもう歩いているのに」と言う。

またある母親は、「とにかく身体が柔らかくて、立つこともできないし、ことばもでないの。遊びもどんな遊びをしたら良いかわからない」など、今後をどのようにしていったらよいか、何からどう育てていったらよいかわからないという不安のつぶやきが聞かれた。その不安を解消することはできないかと考え、疾患の特性を理解したうえで生活援助を検討することとした。

1 ダウン症の病態と特徴

ダウン症は染色体の異常による奇形や障がいを含む疾患であり病理的な問題が多くみられる。

主なものは心疾患（心内膜床欠損を伴う）である。また、消化器系の疾患（十二指腸閉鎖症、幽門狭窄症、先天性巨大結腸症、気管・食道ろう）がある。また筋緊張低下による特徴として摂食における授乳の難しさがある。また筋緊張低下だけではなく、舌が大きく突

き出ていることによる授乳の難しさもある。腸の筋組織も低筋緊張のため、便秘が頻回に起きる。関節の弛緩や筋緊張低下による先天性股関節脱臼の発生率も高い。頸椎関節の不安定な状態から何らかの衝撃が加わり脱臼を起こすと脊髄神経の圧迫や損傷を引き起こし、呼吸障がいや神経麻痺などを生じ、死に至ることがある。それ以外の特徴として体温調節機能の低下、先天性甲状腺機能障害、先天性白内障などがある。ダウン症児は軽度から重度まで多様な病態があり、その子に応じた関わりが必要である。

1) ダウン症に起こりやすい合併症

免疫機能の異常により呼吸器感染症（上気道炎・気管支炎 肺炎）や浸出性中耳炎、結膜炎などの感染症をおこしやすい。また、う歯や歯肉炎にかかりやすく、先天性心疾患を持っている子どもは感染性心内膜炎などの合併症を招くこともある

2) 病理的問題から生じる発達の特徴

(1) 身体の発達

筋緊張の低下、関節可動域が大きい、膝の屈伸機能の未発達 足部底屈筋が弱い 平衡感覚の成熟が遅れるなどの特徴がある。それに伴う病状として以下のものがあげられる。

- ・外反偏平足
- ・立位での安定性に欠けバランスが崩れやすい
- ・少しの段差でも転倒しやすく、下り坂は苦手 階段が下りられない
- ・動作が鈍い
- ・握力や指先の力が弱い
- ・手の基本的な動きや指を協調的に動かしたり腕の回内 回外運動が苦手
- ・立てるのが1歳過ぎた頃で一人歩きは2歳半ごろが多い。3歳を過ぎた頃から階段を上れるようになり、5歳頃になり足を交互に出しながら上れるようになる。三輪車に乗れるようにもなるが、足を交互に出して階段を下りようになるのは7歳から8歳頃である
- ・手指の運動も巧緻性に欠け、しっかりつかんだり重いものはもてない。1歳ごろになると人差し指などで物をつついて遊ぶなどできるようになり、指差しなども多くするようになる。2歳頃には指先で物をつまめるようになり、3歳頃、物をつかむことが出

来るようになる。

(2) 言語発達

知的障がいを伴うことが多く言語発達も遅れがちである。

- ・視知覚の能力は優れているため、言語理解は良いが表出言語は遅れる
- ・口腔周囲筋の不調和 舌が大きい 高口蓋、歯列不整などの特徴から構音障がいがあり発音が不明瞭（吃音の頻度が高い）
- ・浸出性中耳炎、中耳奇形などから伝音声難聴や先天性感音性難聴などがあると言語発達が遅れる

(3) 情緒・認知発達

- ・IQも一般的にもやや低下するといわれている。軽度から中等度（言語を用いない認知検査では、IQ 70~80を示す子どももいるといわれている）
- ・おとなしい、人なつっこい、社交的、模倣力に富んでいるが反面頑固。

2 病理的な問題を持つ症児の望ましい子育て・保育

ダウン症児のもつさまざまな特徴に応じた子育てを検討するうえで重要なことは、家族（保護者）がダウン症児をどの程度認識・理解しているかを把握することである。家族が児を十分に理解し、子育てをすることが大切であり、そのためには保護者が何を問題と感じているのか、保護者のニーズを十分にくみ取り、対応することが求められる。保育者には病態に合わせた子育て・保育について指導・関わりが求められる。生活援助を含めた保育を行うためには、身体の発達やダウン症児への配慮点、ことばの発達に応じた会話方法、発達に応じた子育ての方法や配慮点を理解したうえで関わる必要がある。そのため、発達に応じた子育て方法や配慮点について表1にまとめた。

3 まとめ

ダウン症児に関するガイドブックやテキストは多く、病態における問題点に対する日常生活上の注意点や予防接種の流れに関する説明的な内容は多くみられる。しかし、子どもにとって日々成長発達する生活そのものと遊びを結び付けた内容や遊びの提供に関する配慮点までを明記されたものは少ない。

ダウン症児は多くの障がいを持って生まれてきている。身体の状態と考えられる病気・変化する心の動き

などを理解し、一人ひとりにあった子育て・保育を行うことにより、その子らしくのびのびと育つと考えられる。疾患特性からも健常児と比べて発達が揺るやかな児が多い。しかし、その子らしい発達段階を進んでいることを理解し、その子の発達を見守ることが大切である。発達の特徴を家族に伝え、児に応じた子育てを実践し、発達を促すことが一番望ましい成長である

ことを、家族には理解していただく必要がある。発達の段階を的確に捉えた中で子育て・保育することが症児にとって最善の環境である。将来を考えたとき、他児を見て比べることはあってはならない。症児を深く理解し正しく認識し、前向きな子育てが症児を輝かせ、かわいい発達を確認できると考える。

表1 日常の生活習慣の自立と生活援助のポイント

生活習慣	発達の状況	問題点	配慮点
食事・栄養 1歳ごろ	<ul style="list-style-type: none"> ・コップを持って自分で飲むことが出来2歳頃までにはスプーンを使って自分で食べるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・偏食と過食に注意 ・摂食機能の遅れから離乳食の開始や進行が遅れるため、子どもに出来るだけたくさん食べさせたいという親の思いから子どもの好むものだけ与えたり、いつまでも親が介助してしまう。また食べものを噛まずに飲み込むことが多く食事量が多くなり運動量が少ないなどから肥満になりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を考慮し食生活の管理をする ・甘いものの摂取を控え、子どもの運動量に合わせた摂取量と工夫した献立内容にする
睡眠 乳児・幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ・月齢の平均睡眠時間より長い時間眠っている 身体の発育が未熟なためで心配はない ・目を覚まして泣かないでおとなしくしているときはこちらから働きかける ・睡眠のリズムを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜泣き、夜と昼間を取り違える眠りが浅い 	<ul style="list-style-type: none"> ・深くぐっすり眠ることが出来る環境を整える ・子どもの睡眠パターンを知ること 寝室をきめ、適度な温かさ涼しさを保つ ・生活の流れの中で睡眠時間を一定にし、そのリズムを崩さないようにする
排泄 2～3歳頃 (重度の障がいや合併症がある場合を除く)	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレトレーニング開始 ・排泄時間が一定してきたら、時間を決めてオマルに座らせる習慣をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅くとも4～5歳までに開始したい。遅れるとオムツへの排泄が固定してしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋の低緊張から便秘になりやすい 繊維質の多い食物や水分の摂取に心がける ・腹部のマッサージや運動にも心がける ・時に浣腸も必要であるが、時間をかけて排便を促すことが大事
清潔 1歳頃	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きを開始 家族や母親がきれいに磨いてやる ・歯ブラシが自分で持てるようになったら、自分で口の中に入れてさせる習慣付けをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・う歯や歯肉炎になりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内の清潔を保つことが大切 歯の汚れを取ると共に歯茎をマッサージし血液の流れを良くすることで歯周疾患を予防するようにする ・模倣能力が優れている特性をいかし、周りの人と一緒に行うようにする ・定期的に歯科受診をし、予防につとめる ・手を洗う習慣は食事 排泄の後 遊びの後など、その場に応じて行うようにする

生活習慣	発達の状況	問題点	配慮点
衣服の着脱 5～6歳で出来る子もいる	<ul style="list-style-type: none"> 自分で全てが出来るようになるには時間がかかる 6歳になっても出来ない子がいる。ボタンがけやひも結び(くつ)は学童期になっても継続してみていく 	<ul style="list-style-type: none"> 手指の巧緻性に欠ける 	<ul style="list-style-type: none"> 無理強いをしないで動きに対応した声かけをし、段階をおって行う

遊び 身体の発達に合せた遊び、社会性を伸ばす遊び、会話を伸ばす遊び、病気から捉えた遊びなどがある

遊び	具体的な内容	配慮点
五感で楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> 感覚機能や運動機能を使ったり、刺激したりする遊びを一緒に楽しむ 赤ちゃん体操(全身の体操) 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に合せ子どもの表情を見ながら、無理しないテンポで行う
読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none"> 言語や認知発達に大きな効果があるため、リズムカルに時に歌が入るような本を選ぶ 簡単な赤ちゃん用の絵本 エプロンシアター 紙芝居 パネルシアターなど 	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくり、わかりやすい表現 感情豊かに子どもにあわせた流れを作る 子どもの集中できる時間を把握し、楽しめる範囲で行う(日々の生活に取り入れて行うことでことばを増やすことが出来る)一方的な読み聞かせにならないように一緒に楽しむ 根気よく何度も繰り返し行う
リズム遊び	<ul style="list-style-type: none"> リズムに合せた遊び 手遊び 身体を揺らす くすぐり やさしくタッチ 物まね 歌を歌う 打楽器を使って音を楽しむ 子どもに合った即興曲で子どもと触れ合う 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に合せた楽器を用意する みんなと楽しめる時間設定もすると良い
絵描き	<ul style="list-style-type: none"> 画用紙に ボードにペンを使って描く 自分の手を使って絵を描くフィンガーペインティング 筆や刷毛を使って描く ハンコを使って描く 折り紙 包装紙をちぎって描く シールを貼る マーブリング(水に絵の具を浮かべて遊ぶ) 吹き絵 	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描くとき、子どもの握る段階を理解し、子どもにあった太さや重さ、長さなどを考慮する 吹き絵は子どもの吹く力で絵が変化するそのうごきを楽しむため、効果音をつけるなどし一緒に楽しむと良い。

遊び	具体的な内容	配慮点
貼り絵	シール貼り ちぎりえ セロハンテープ 新聞紙 折り紙 ひも 布などを台紙に貼る マグネット板の貼り絵	貼ったり、ちぎったりする力は個人差がある 子どもの状態を判断し用意する 楽しむことでまた遊びたいという意欲が持てるような材料を選ぶ
玩具で遊ぶ	軽い素材の積み木 マジックテープを使ったマッキング 簡単なパズル 布絵本でボタンがけ チャック使い ひも結び ままごと遊び 粘土 ぬいぐるみ ボール 風船 音のでる玩具（引く 押す 叩く 入れる 出す 流す 転がす 並べる 回すなど） ペットボトル利用のボーリング	<ul style="list-style-type: none"> 目で変化を確認できるような玩具を用意する ボーリング遊びは遊びながら数に対するおおよその理解が出来る
ことばのやり取り	指人形 かくれんぼ（いない、いない、ばー） これなあに（オーム返しを楽しむ） 腹話術 ごっこ遊び	<ul style="list-style-type: none"> ゆったりした雰囲気の中で楽しみながら、ことばのやり取りを繰り返し繰り返し行いことば数を増やす 簡単なことばで遊ぶ 2語文のやり取りでリズムカルに行うと良い 褒めることばや認めることばかけを忘れないようにする わかりやすいことばを使い、やりとりを楽しむようにする
身体を使って遊ぶ	スキンシップを楽しむ 母のひざでシーソー遊び 抱っこ遊び おすべり遊び ボール遊び（新聞紙を丸める・投げる・破る） 変身遊び（帽子 風呂敷マント めがねなどつける） まねっこ遊び（母親や保育者のまねをして楽しむ） 腕の中でブランコ遊び タッチ遊び	<ul style="list-style-type: none"> 身体を使う遊びは基本的に母親・家族・保育士と一緒に遊ぶ 普段使わない筋肉の状況を把握した中で無理をしない 骨折など起きることがあるので注意する 筋力を使うことでリハビリを兼ねることが出来るため継続するとよい

参考文献

大場幸夫 柴崎正行：障害児保育ミネルヴァ書房
2011

丹羽淑子：ダウン症児の家庭教育 学苑社 1985

櫃田文也：発達障がい指導辞典 学習研究社 1996

藤田弘子 大橋博文：ダウン症児すこやかノート M
C メディカ出版 2009

川俣実他：ダウン症児の手遊び指導 埼玉小児医療センター医学誌 Vol. 17 No.1 2000

幼児期における情操教育の重要性について

～情操教育とリトミックの共通性と効果の検証～

鷺巣 貴乃

On Importance of the Cultivation of Aesthetic Sensitivity in the Infancy:
An Inspection of the Commonality of Aesthetic Education and Eurhythmics and
the Effect of Cultivating Aesthetic Sensitivity

Takano WASHIZU

キーワード:情操教育, 音楽教育, リトミック

【はじめに】

現代の日本における子どもを取り巻く社会では、急速な社会構造の変化や大人のモラルの低下¹⁾、メディアの発達・普及の影響による他人との会話の減少や自己中心的な人間の増加¹⁻³⁾、核家族化や少子家庭の増加・地域社会のつながりの減少による人間関係を構築する力や社会性の低下¹⁻⁵⁾、格差社会による経済的に困難な世帯の増加による学力等の差^{1,3)} いじめ問題によるいじめる側の心の荒廃やまわりの子どもの対応の問題³⁾ 等のさまざまな問題やめまぐるしく変化する環境が、子どもに大きな影響を与えていると言われている。

この対策として国は、子どもの道徳性を育む徳育¹⁾、豊かな情操、自制心や自立心など生きる力を培うこと²⁾、子どもの心の教育の充実³⁾ を実践していく必要があると言っている。このほか、幼稚園や保育所の指針及び目標では豊かな感性を育てること⁶⁾ が、小学校における音楽の指導目標では豊かな情操を養うこと⁷⁾ が明記され、情操教育が必要であると言われている。このため、各方面において情操を育むための様々な活動が実践されているが、検証結果等の報告はまだ少ない^{8,9)}。

このような現状で子どもに対する音楽教育を実施していると、情操教育の教育目的¹⁰⁾ とリトミックの教育目的・教育目標¹¹⁾ は共通点が多いと感じることか

ら、音楽教育としてのリトミックが情操を育むことと関連するのではないかと考えるに至った。そこで今回、音楽教育としてリトミックを体験すると情操を育む効果が期待できる、という仮説を立て身近なリトミック体験者の効果について調査を実施し結果の考察を行った。

【対象および方法】

本調査は平成25年7月から8月に、静岡県中部の静岡市と焼津市にある公民館や幼稚園などで行っている有料（会費500～750円/1回）の親子リトミック教室・サークルに参加している保護者に対し、自記式無記名質問票を用いて実施した。対象者は、未就園児（1～3歳）の子どもとその保護者で、ピアノを使用したリトミック（1回45分程度）を月2回実施している（4月新年度より新クラス）。アンケートは図1の通りで「対象者の属性」「子どもの属性」「情操教育の理解度」「リトミックと情操教育の関連性についての意識」「リトミックの体験の有無」「リトミックを体験させている理由」「リトミックを体験したことによる8つの項目における効果の度合い」（①積極性②自主性③感受性④自己表現力⑤注意力⑥集中力⑦協調性⑧コミュニケーション能力）「その他自由記述」について質問した。

なお、分析方法は単純集計と一般論との比較検討のみとした。

【結果】

今回アンケートを行ったリトミック教室は平日の昼間に実施されているため母親との参加がほとんどであ

アンケート協力のお礼：お子様の音楽教育について教えてください

本アンケートで得られた内容は、情操教育を目的とした音楽教育の研究において統計的なデータとして扱うこととしており、個人的な内容がのることは一切ありません。本アンケートにご記入くださった方には、以上のことをご理解いただいたものとさせていただきますので、よろしくお願いたします。

♪幼児の音楽教育に関するアンケート♪ 実施日：平成 25 年 月 日

1. あなた（記入される方）について伺います
性別（男・女） 年齢 20～24・25～29・30～34・35～39・40～44・45～

2. お子様について伺います 性別 男・女
年齢 0歳児（～11ヵ月）・1歳児（12～23ヵ月）・2歳児（24～35ヵ月）・3歳児（36～47ヵ月）・4歳児（48～59ヵ月）

3. 「情操教育」という言葉を知っていますか？
知っている・聞いたことはあるが意味はわからない・知らない

4. 「リトミック」は情操教育のひとつと考えられていますが、リトミックを体験させていますか？
はい・いいえ
リトミック以外の情操教育をやっていますか？ はい・いいえ
「はい」の方は具体的に何をしていますか（ ）例：ピアノ/バイオリン/バレエほか

リトミックを体験させている方に伺います

5. なぜリトミックをやらせているのですか？（複数回答可）
・情操教育としてよいと思ったから・感受性を豊かにしたいから・自己表現の能力を高めたいから
・自主性を高めたいから・積極性を養いたいから・注意力を高めたいから
・集中力を高めたいから・楽しみながら音楽を学べるから・楽しいから
・コミュニケーション能力を高めたいから・その他（ ）

6. リトミックの効果について伺います。
①積極性を養うのに効果があると思いますか
おおいにある ある わからない あまりない ない
②自主性を養うのに効果があると思いますか
おおいにある ある わからない あまりない ない
③豊かな感受性を養うのに効果があると思いますか
おおいにある ある わからない あまりない ない
④自己表現の能力を養うのに効果があると思いますか
おおいにある ある わからない あまりない ない
⑤注意力を高めるのに効果があると思いますか
おおいにある ある わからない あまりない ない
⑥集中力を高めるのに効果があると思いますか
おおいにある ある わからない あまりない ない
⑦協調性を高めるのに効果があると思いますか
おおいにある ある わからない あまりない ない
⑧コミュニケーション能力を高めるのに効果があると思いますか
おおいにある ある わからない あまりない ない

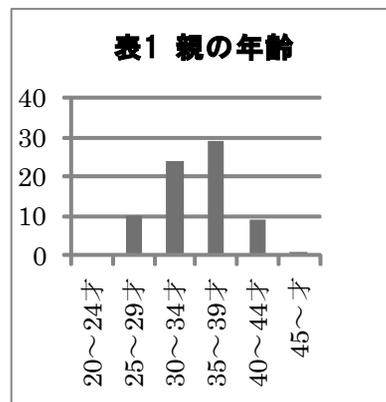
7. ほかに感じていることなどがありましたらお書きください。

♪質問は以上です。ご協力ありがとうございました。♪ 静岡福祉大学非常勤講師 麗根 貴乃 090-4204-2316

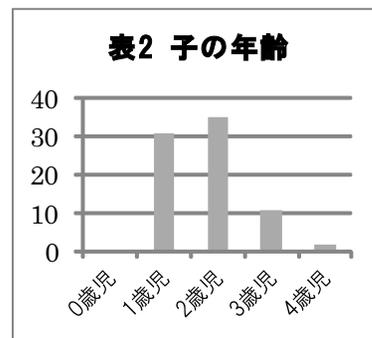
図1. 幼児の音楽教育の効果に関するアンケート

り（数名は祖母）記入者は女性のみであった。また、未就園児の親子を対象としているにもかかわらず4歳児の記入があるのは設問の仕方が特にリトミックを体験している子に対してのみの記入を求めなかったため、ほかの兄弟について記入した方がいたためである。

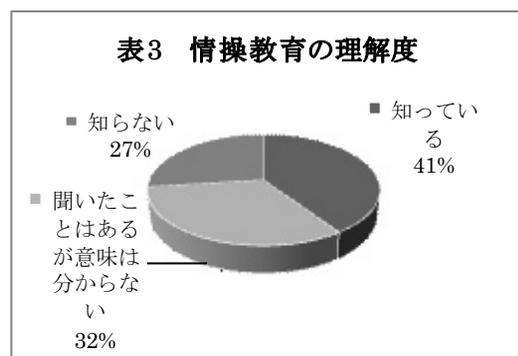
1. 「対象者の属性」のうち親の年齢は表1のとおりであった。性別（男：0人,女：75人）



2. 「子どもの属性」のうち子の年齢は表2のとおりであった。性別（男：31人,女：45人）



3. 「情操教育の理解度」は表3のとおりで、内容を理解している人は41%であった。



4. 「リトミックと情操教育の関連性についての意識」は回答を求めなかった。

「リトミックの体験の有無」は結果としてリトミック教室のみでのアンケートの実施となったため全員が有るとなったので表記しないこととした。

5. 「リトミックを体験させている理由」は表4のとおり、その他における記述は表5のとおりであった。

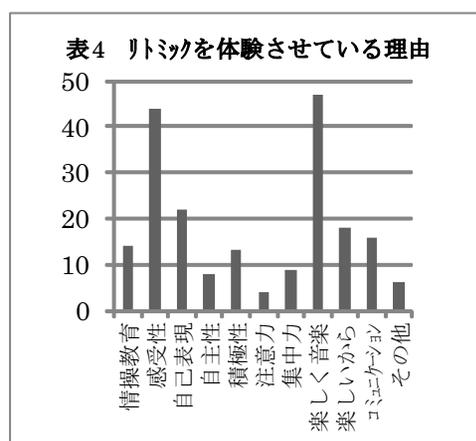


表4の項目内容は以下の11項目である。

- ・情操教育としてよいと思ったから
- ・感受性を豊かにしたいから
- ・自己表現の能力を高めたいから
- ・自主性を高めたいから
- ・積極性を養いたいから
- ・注意力を高めたいから
- ・集中力を高めたいから
- ・楽しみながら音楽を学べるから
- ・楽しいから
- ・コミュニケーション能力を高めたいから
- ・その他

特に多かったのは「楽しく音楽を学びたいから」、「感受性を豊かにしたいから」、次に多かったのは「自己表現の能力を伸ばしたいから」、「楽しいから」、「コミュニケーション能力を高めたいから」であった。

・楽しく身体を動かせるから
・同じ位のお友達とふれあえるから
・同じくらいの年齢のお友達と一緒に関わる機会として選んだ
・友達を作りたかった
・他の子どもとのふれ合いのため
・親子で一緒にふれ合いながら楽しみたいから

6. 「リトミックを体験したことによる効果の度合い」
 ①積極性②自主性③感受性④自己表現力⑤注意力
 ⑥集中力⑦協調性⑧コミュニケーション能力
 についてそれぞれの人数の結果は表6、各割合は表7～表14のとおりであった。

表6 リトミックを体験したことによる効果の度合い（単位：人）

	1 おおいにある	2 ある	3 わからない	4 あまりない	5 ない
①積極性	12	44	18	1	0
②自主性	11	41	21	1	0
③豊かな感受性	32	36	6	0	0
④自己表現能力	24	40	11	0	0
⑤注意力向上	9	44	21	1	0
⑥集中力向上	9	46	16	0	0
⑦協調性向上	20	45	9	0	0
⑧コミュニケーション能力	17	48	9	0	0

表7～表14の各割合については以下のとおり

- 1 おおいにある
- 2 ある
- 3 わからない
- 4 あまりない
- 5 ない

表7 「積極性を養う」効果

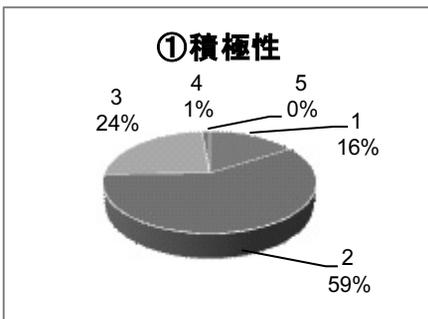


表8 「自主性を養う」効果

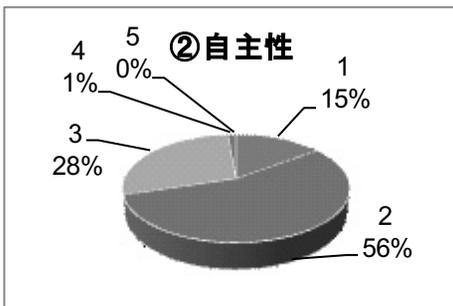


表9 「豊かな感受性を養う」効果

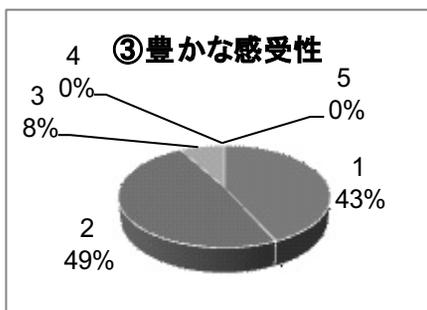


表10 「自己表現能力を養う」効果

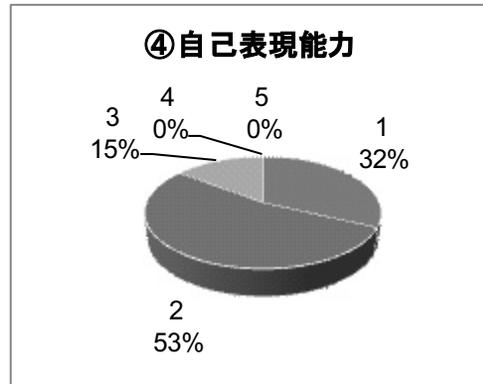


表11 「注意力向上」の効果

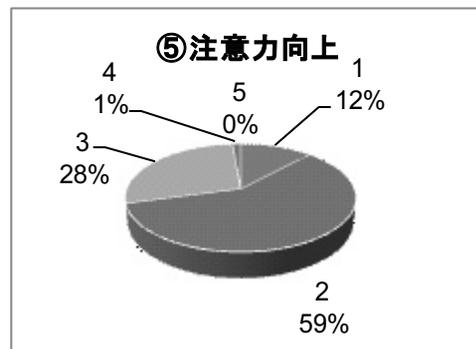


表12 「集中力向上」の効果

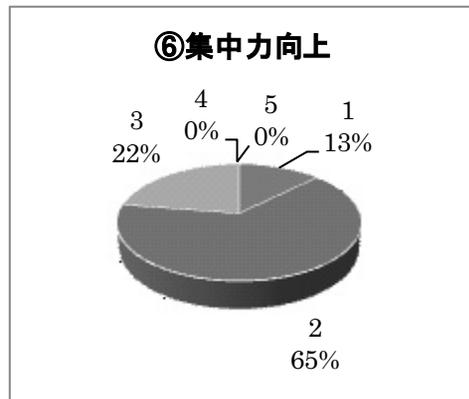
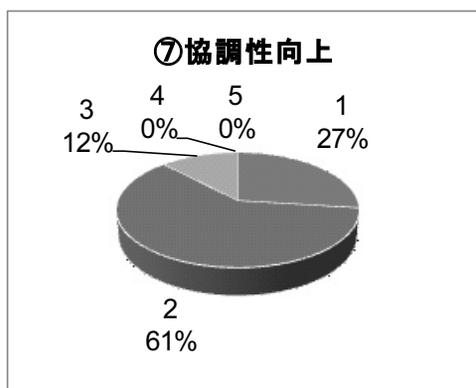


表13 「協調性向上」の効果



リトミックの効果について質問した項目で8割以上が「効果がある」と回答したのは、『感受性を豊かにしたいから』と『自己表現能力を養いたいから』、『協調性を向上させたいから』、『コミュニケーション能力を向上させたいから』であった。

8. 「その他自由記述」は、表15のとおりであった。

表14 「コミュニケーション能力向上」の効果

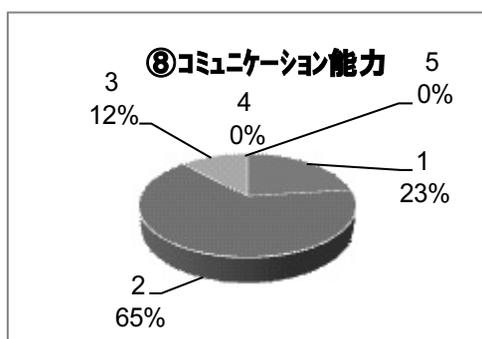


表15 自由記述 ほかに感じていることなど

- ・楽しんでやれるのが1番です。
- ・基本のご挨拶とかお友達と一緒に何かをする事が自然と身に付いた気がする。
- ・いつも楽しいです。
- ・歌をよく歌うようになった。
- ・とにかく子供が楽しそうなのがいい。
- ・子供と一緒に楽しめてとても良いと思います。
- ・音楽に合わせて身体を動かすのが好きになりました。
- ・リトミックに通っていきいきしていると思う。
- ・音楽は好きな子だなとは思っていましたがリトミックは本当に楽しそうで参加してよかった。
- ・集中力がつきました。
- ・いい音を耳で聞いていると、ふっとした時に口から出て来るのは脳にもいいのかなと感じる。
- ・身体全体を使って表現する楽しさ。
- ・繰り返しの中でとても楽しく続けています。
- ・生活の中で「お片づけ」や返事「～くん」「はあい」などリズムに合わせてやるようになった。

【考察】

今回のアンケート結果のうち「リトミックを体験させている理由」(表4)において『感受性・自己表現力を伸ばしたいから』を選択した人が多かったのは、これが情操教育の教育目的を持つことから、情操教育を知らずともそれを育みたいと感じている保護者が多いためだと思われる。

情操とは「芸術、宗教、学問、道徳」などの文化的あるいは社会的価値、広くは人間的価値のある対象に対して起こるさまざまな感情や、「正しいもの」、「美しいもの」などを素直に感じると豊かな気持ち等を言う^{10,12,13}。又、「情操は何らかの原因で一時的に生じる情動のような感情とは異なり、社会的環境や個人の生活環境・知的体験などの影響を受け、無意識のうちに形成されるもので、持続的な感情である。そのため、個人の属する社会の文化水準や生活水準、教育程度に応じた情操が存在することになる。乳幼児では知的発達に伴い好奇心が旺盛になるが、自分の行動空間が拡大され多くのものとかかわり合うようになり、さらにことばが習得され大人の感情表現が理解できるようになると、可愛い・可愛くない、好き・嫌い、良い・悪い、きれい・汚いなどの評価を伴った事態がわかるようになる。するとより複雑な感情が現れ、情操が現れ始める」¹⁰とされており、今回の結果から、情操を育む効果の有用性への期待を裏付けることができる。

「リトミックを体験させている理由」のアンケート結果で『楽しみながら音楽が学べるから』と『楽しいから』の項目を選択した人が多かったが、このことからリトミックに遊びの要素が多いと認識されていることがわかった。これは、幼児期運動指針で「楽しく体を動かす遊びはコミュニケーション能力、やる気や集中力、社会性や認知的能力などを育む機会を与えてくれる」¹⁴と示されていることから、遊びとして楽しく体験することが幼児期の教育において効果的だと言える。また「リトミックは感覚的成長が最も著しい幼児期にこそ必要である」¹⁵とされていることから幼児期に行うことが効果的だと確認できる。

「音楽教育は人間の心とからだの発達段階を考慮して行すべきだ」と提唱したスイスの作曲家・音楽教育家エミール・ジャック・ダルクローズ(1865~1950)は、いろいろな研究を重ねた結果、音楽教育にリズム運動を取り入れた『リトミック』を考え出した¹⁷。「音楽を聞く・歌う・演奏する・作る、といった音楽

教育で学ぶすべてのことを、からだを動かす経験を通して感じとっていく」¹⁵ リトミックは、「体を楽器に見立てた音楽表現活動である」¹⁶とも言われている。リトミックの教育目的、目標における全体の要素は・グループの中や個々においての社会性の認識・集中力・反応力・適応力(即時に、熟慮して)・学ぶ上での注意力、自覚・自分の考えを明快に表現できる自己表現力である、と述べられている¹¹が、今回の結果はこれを裏付けていると考える。

「リトミックを体験させたことによる効果」におけるアンケート結果で、特に効果があったとされる表8『豊かな感受性を養う』、表9『自己表現の能力を養う』については、リズムを生かし音楽に反応して動くことにより、感じる心・想像力・創造力を養い¹¹、心で感じたものをからだを使って自分なりに表現する自己表現力を伸ばすことで心とからだの強調・調和を作り出そうとする^{15~16} リトミックの教育目的と、「豊かな感受性と・自己表現の能力を育てる」^{10,12}とする情操教育の教育目的で述べられている点として共通していると言える。

同じく特に効果があったとされる表12「協調性の向上」と表13「コミュニケーション能力の向上」においては、社会とのよりよいコミュニケーションを築くという点において社会性を伸ばすことになると思われるが、リトミックの教育目的である「社会性の認識」、「適応力の向上」¹⁵に繋がる一方、情操教育の視点からは、情操が社会的環境や個人の生活環境・知的体験などの影響を受けて形成される¹⁰とされていることから、豊かな情操を育むのに重要になってくるのではないかと推察される。

「リトミックを体験させたことによる効果」表6~表13のうち、表6『積極性』と表7『自主性』においては、リトミックの効果について「わからない」「あまりない」の割合がほかに比べ高かったが、これは1歳児や2歳児では親から離れると不安になる分離不安や人見知りが起こるため¹⁷「わからない」「あまりない」が多い傾向にあったと思われる。

最後に、アンケートのとり方の反省点として、子どもについて聞いた質問においては、リトミックを体験していない兄弟についての結果を記入している方がいたため、リトミックを受講している子に限定した調査であることを明確に示した方が良かったと感じた。集計や分析に際し、リトミック体験期間を知る必要性を

感じたが、今回の調査には質問項目に入れていなかったため、この項目の質問を追加する必要性を感じた。今回の集計と分析に際しては、本講座の開講が毎年4月であることから、1歳児のリトミック体験期間はほとんど4～7月の4ヶ月間で、2,3歳児のリトミック体験期間は1年4ヶ月間と仮定した。また、今回は人数の割合など比較しづらいため男女の差については分析や考察はしないが、男児のほうが「わからない」との回答が多かった。精神面では女兒の発達が早いとされるため効果が出易かったのではないかと推察する。また、そのため女兒に体験させたいと思う親が多いのではないかと感じた。

【結論】

今回のアンケート結果を考察した結果、音楽教育におけるリトミックでは情操を育む効果が期待できることがわかった。これを踏まえて幼児教育での音楽教育やその他の活動においてリトミックの要素を取り入れながら音楽を活用し、子供の情操を育むようにすることが望ましいと考える。

【謝辞】

本調査にご協力いただいたリトミック指導者の方、リトミック参加者の保護者の皆様、また今回さまざまなご指導をいただいた森野智子氏に深く感謝申し上げます。

【引用、参考文献】

- 1) 文科省
現代の子どもの成長と徳育をめぐる今日的課題
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286155.htm 2013・8・15 アクセス
- 2) 中央教育審議会報告書 少子化と教育について
www.mext.go.jp 2013.8.27 アクセス
- 3) 文科省 児童生徒のいじめの問題に関する指導の充実について
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19850629001/t19850629001.html 2013・8・13 アクセス
- 4) 文科省 いじめへの対応のヒント
東京学校臨床心理研究会運営委員作成

- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/040/shiryo/06120716/005.htm 2013.8.13 アクセス
- 5) 海竜社 日野原重明・湯川れい子著
『音楽力』 P31
 - 6) 厚生労働省
幼稚園教育要領と保育所保育指針の関係
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/030/shiryo/06022009/005.htm 2013.7.21 アクセス
 - 7) 文科省 小学校学習指導要領解説 音楽編
www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/.../syo_ongaku.pdf 2013.7.21 アクセス
 - 8) 文科省 木材を活用した学校用家具の事例集第2章調査研究結果(3)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/shuppan/06_051207/004.htm 2013.8.18 アクセス
 - 9) 日本獣医師会 学校飼育動物活動の推進について
nichiju.lin.gr.jp/small/school/h17_05.pdf 2013.8.27 アクセス
 - 10) 福村出版 片山義弘・石井真治 編
乳幼児発達心理学 P61
 - 11) ドレミ楽譜出版 エリザベス・パンドゥレスパー 著 石丸由理訳 ダルクローズのリトミック P12
 - 12) 岩波書店 新村出編 広辞苑
 - 13) 三省堂 明解国語辞典
 - 14) 文科省 幼児期運動指針ガイドブック
www.mext.go.jp/component/a.../05/.../1319748_1.pdf 2013・7・21 アクセス
 - 15) ドレミ楽譜出版社 岩崎光弘著
リトミックってなあに P4
 - 16) 明治図書出版
神原雅之編著「体を楽器」にした音楽表現
リズム&ゲームにどっぷり! リトミック 77選 P5
 - 17) ミネルヴァ書房 内田伸子編 乳幼児心理学 P40

福祉心理学科

教授 小田部雄次

単行本

単著 『日本歴史 私の最新講義 近現代の皇室と皇族』 敬文舎 2013年1月24日 319頁

論文

単著 「東京裁判における木戸幸一の弁護方針と獄中書簡」 国立歴史民俗博物館『歴博』177号
2013年3月20日 15頁～19頁

単著 「宮中の西欧化と昭憲皇太后」 明治聖徳記念学会『明治聖徳記念学会紀要』復刊50号
2013年11月刊行予定

教授 石原 治

論文

共著 「日本人版メタ記憶尺度（日本版M I A）の構造と短縮版の開発」 認知心理学研究 11. 31-41.
2013年8月

教授 徳山美知代

単行本

共著 第6章 ケースカンファレンス 相澤仁（編集代表）・犬塚峰子（編集）やさしくわかる社会的養護
シリーズ3 子どもの発達・アセスメントと養育・支援プラン pp117-129. 明石書店 2013年

論文

共著 生涯学習社会の“まちづくり” 柏の葉キャンパスタウンの事例から 千葉大学教育学部研究紀要
第60巻 pp295-300. 2012年

その他

共著 いじめ・体罰を防ぎ、自律を促す関係性構築——アドベンチャープロセスの視点から——
日本カウンセリング学会第46回大会発表論文集 p58. 2013年9月

共著 東日本大震災後の子どもに対する支援としての“子ども森・水キャンプ”に関する検討
日本カウンセリング学会第46回大会発表論文集 p156. 2013年9月

共著 プロジェクト・アドベンチャーの手法を用いたグループアプローチ 日本子どもの虐待防止学会
第19回学術集会信州大会抄録集 pp170-171. 2013年12月

共著 児童養護施設の児童とケアワーカーを対象としたアドベンチャープログラムによる関係性の変化
日本子どもの虐待防止学会第19回学術集会信州大会抄録集 p253. 2013年12月

教授 清水 将一

単行本

共著 『現代地域福祉論』 3章2節 地域福祉の団体・組織 保育出版社 2013年3月

論文

単著 「福祉コミュニティを目指す小地域活動に住民参加を促す方法に関する一考察～理論と実践をつなぐ10の戦略～」『福祉研究』105号 日本福祉大学社会福祉学会 2013年2月

その他

共著 「福祉教育長期プログラムの理論と実際その1～構成要素と福祉教育目標の理念～」

共著 「福祉教育長期プログラムの理論と実際その2～長期プログラムの構築における視点と課題～」
日本福祉教育・ボランティア学習学会第19回いしかわ大会報告要旨集 2013年11月

講師 岩本 勇

論文

単著 「成熟市場における商品開発と流通システムの視点」 産業経済研究 第13号 2013年3月

その他

単独 「成熟市場における商品開発と流通システム開発の視点」 日本産業経済学会全国大会 立教大学
2012年9月15日(土)

共同 「平成24年度 地域資源活用産学共同研究(静岡市委託事業)」 共同研究者 染織家 稲垣さん
生陽会 静岡福祉大学(岩本 野坂 斎藤) 2013年3月

共同 「焼津まちみがき計画」～焼津市中心市街地活性化基本計画(平成25年度～27年度)～ 焼津市産
業振興部商工課 2013年3月

単独 「静岡福祉大学産官学連携推進センター活動報告」 ふじのくに食品展 静岡グランシップ
2013年1月23日

単独 「モンゴル市場に向けたマーケティング」 モンゴル国際交流学術研究大会 ウランバートル日本
人材開発センター 2013年9月3日(火)

講師 草野 智洋

論文

単著 「ひきこもりから見る現代社会 一舗道の敷石からモザイクの石へ」 日本ロゴセラピスト協会論
集第5巻 2013年3月

共著 「臨床実践のためのロゴセラピー」 日本ロゴセラピスト協会論集第5巻 2013年3月

講師 上野 永子

論文

- 単著 「母親の幼少期における愛着パターンと子育ての関連」家族心理学研究第26巻第2号、2012年11月, pp.159-172

助教 山下 紗織

論文

- 単著 『魔法のことば』考一成立過程と「言葉」の力ー 絵本学 第15号 1-12
2013年3月

その他

- 共著 「保育者養成初期段階における保育者のイメージを形成する授業について(2)」
全国保育士養成協議会第52回研究大会研究発表論文集 502-503 2013年8月
- 共著 「保育者養成初期段階における保育者のイメージを形成する授業について(3)」
全国保育士養成協議会第52回研究大会研究発表論文集 246-247 2013年8月
- 共著 「保育者養成初期段階における保育者のイメージを形成する授業について(4)」
日本乳幼児教育学会第23回大会研究発表論文集 292-293 2013年9月

医療福祉学科

准教授 岩井 宏

著書

- 共著 「基本情報処理技術者テキストⅠ ハードウェア・ソフトウェア 改訂版」実教出版 2013年3月
- 共著 「基本情報処理技術者テキストⅡ データベースとアルゴリズム 改訂版」実教出版 2013年3月
- 共著 「基本情報処理技術者テキストⅣ ネットワーク技術 改訂版」実教出版 2013年3月
- 共著 「基本情報処理技術者テキストⅤ セキュリティと標準化・情報化と経営 改訂版」実教出版
2013年3月

その他

- 共著監修 平成22年度緊急雇用創出事業 静岡文化・観光部観光局観光政策課委託事業「おでかけサポーター」
モデル講座 監修 静岡福祉大学 2012年2月

准教授 岡澤 裕子

論文

- 共著 "Evidence for the Appearance of Atmospheric Tau Neutrinos by Super-Kamiokande."
Physical Review Letters 110, 181802 2013年5月

助教 鈴木 政史

論文

共著 「相談援助実習における「実習指導者」と「実習担当教員」の協力・連携—テキストマイニングによる実習評価の分析から—」静岡県社会福祉士会 研究誌【第12号】「社会福祉士 静岡」
2013年5月

著書

監修・共著 「クエスチョン・バンク ケアマネ2013 ケアマネジャー（介護支援専門員）試験問題解説」
メディックメディア 2013年3月

報告書

共著 「社団法人 全国保育士養成協議会 平成24年度 ブロック研究・研究成果報告書」
2013年3月

その他

共同 「工賃評価における作業分析活用の可能性—就労継続支援B型事業所の作業分析から—」
日本社会福祉学会 第61回秋季大会 2013年9月

健康福祉学科

教授 太田 晴康

論文

共著 「災害時におけるユニバーサルな情報提供システムの構築」第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 in 福岡論文集 2012年11月

教授 西尾 敦史

論文

単著 研究ノート「福祉政策における「地域」の意味：1990年代以降の政府報告書を中心に」
日本の地域福祉 第25巻 2013年1月

単行本

共著 「福祉臨床シリーズ 相談援助演習」弘文堂 2013年4月

その他

編集 「平成24年度地域連携・ネットワークづくり等実態調査報告書」沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会 2013年3月

准教授

向山 守

論文

単著 『「詩篇41」 訳・注』 *Ezra Pound Review* 15:51-62、日本エズラ・パウンド協会
2013年3月

その他

共著 『「マイ・ライフ」よりーリン・ヘジニアン詩集』
メルテミア・プレス 2013年